



麦笛

25 号

2016 年 8 月 29 日

発行
東京尊商會広報委員会

発行人
村井 健 (51 期)

平成28年度 本部尊商會總會に出席して

東京尊商會會長
41期 中村みのり



本部尊
商會總會
が6月25
日(土)「グ

ランドパーク小樽」に於いて
盛會に開催され出席致しまし
た。

今年度は73期の皆さんが当
番幹事として受付ロビーに尊
商會法被姿の女子が元氣に開
會を盛り上げていました。

總會は当番幹事代表の開會
の辞で始まり、大森富美雄會
長(51期)のご挨拶は昨年度
発表された、学校閉校に伴う
尊商會の在り方に触れまし
たが、一年経った今もまだ
100年の重みがある同窓會
には課題が多すぎて、最終の

決定までには時間が掛かりそ
うでした。

続いて、今年新任されまし
た仁藤隆学校長からご祝辞が
あり、「今年度79名、来年度
80名入学予定の生徒が卒業す
るまでしっかり育成し見守っ
ていきます」との、力強いお
言葉がありました。私も東
京尊商會代表として祝辞を述
べましたが、今年度の卒業生
113名(男子15、女子98名)
を含む尊商會會員がこれから
も東京尊商會と同じように、
「同窓の絆」の旗の下、出来
る限り長く絆で結ばれますこ
とを提案致しました。

懇談会は札幌尊商會會長上
田俊英氏(47期)の乾杯の音
頭で始まり、各期のティーブル
は一挙に賑やかになり、アト
ラクシヨンは小樽商科大学の

「よさこいソーランサークル」
による「翔舞」が披露され、
力強く舞台、狭しと跳ね回り
懇親會を盛り上げていただき
ました。

応援歌は、壇上に次々と先
輩會員が上がり、定番のほか
興に乗って「住吉さん」
など手拍子で大合唱になりま
した。最後は、来期74期
への「引継式」があり、
尊商會副會長 村井秀一
氏(50期)の万歳三唱で
閉會となりました。

總會に先立ち午後4時
から理事会が開催され、
昨年決まった閉校につい
ての報告があり、平成29
年度の新生を最後に平
成32年3月の卒業式で全
てが終わります。

新設校は(校舎は最上
町にある小樽工業高校を

同窓の絆

使用)平成30年度から一期生
が、入学になります。校名は
まだ決まっておらず、これか
ら道教委・学校長の話し合い
の中で決めていくということ
でした。

閉校に伴う尊商會の存続に
ついては諸問題を検討中です
がなかなか難しいようです。最
後の卒業生が入会すると約
3万名近い會員数になる大き
な会になり、維持のため事務
局・会費の取りまとめなど運
営はかなり困難とのこと。で
全国にある支部の意見も参考
にしながら結論を出したいよ

うです。

概略が決まらない状況下で、
氣持が落ち着かない今年度
になります。東京尊商會は65
周年を迎えます。記念になる
企画を考えております。昨年
は若手の方に集結していただ
き大いに盛り上がりましたが、
今年も皆さんのご参加を樂し
みにしております。

また、会に關して、ご意見
ご要望などございましたら是非
ご連絡下さい。

今年度の總會は10月29日
(土)13時から開催いたします
ので「同窓の絆」の旗の下、ご
参加くださいますようお願い
申し上げます。

高樂寺のしだれ桜

46期 小林 和幸

90年に、それまでの勤務
地札幌から東京に転勤とな
り、八王子市内の住宅団地に
住まいを移した。

70年から80年代は、誰
でもそうであったように、休
日出勤は当たり前で、仕事に
明け暮れる日々。旅行などは
思いもよらないことであつた。



よさこいソーランサークル 尊商會總會



八王子の住まいから、車で2〜3分のところに、中央道八王子インターがあり、このロケーションがそれまでの生活を一変させた。

たまの休みには、車を駆って、山梨・長野をはじめとする関東方面や東北方面に頻繁に出かけるようになり、旅行の楽しさにやっと目覚め、生活に張りが生まれた。各地を訪ねるようになって、北海道では関心の薄かった、桜に魅せられるようになり、各地にはその土地ならではの趣のある桜があり、発見の連続であった。

ソメイヨシノの妖しいまでの華やかさ、特に夜の闇にぼおーと浮かぶ様は「桜の樹の下には死体が埋まっている」が実感出来る程。また、ヤマザクラ、オオシマザクラの清楚な姿は異なる魅力に満ちている。

住まいを高尾駅直結のマンションに移してからのある日、ベランダから何気なく眺

めてみると、こんもりとした濃いピンクが見え、その方角に向かうと、小さな寺の境内に、一本の紅しだれが、枝葉を広げ、その先端は地面に着くまでに伸びていた。これが、高楽寺のしだれ桜との出会であった。

境内一杯に広がる桜は、静かに凛とした佇まいで、その空間は、静寂で、心が落ち着き、穏やかな空気が支配しており、長い時間を過ごした。

翌年から春の定番訪問場所となったが、数年たつて、現在の千葉県内の市に移り住んではからは、訪れる機会がなく、来年こそは、と考えている。

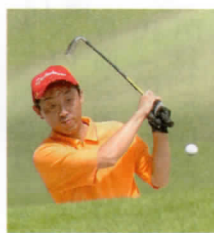
ここ数十年、一本の、桜、ケヤキ、イチヨウ、クスノキなどが各地で観光客を集めているのは、並木や樹叢等とは異なる生命力を感じるからでしょう。

自分のソメイヨシノのベストは、東京近辺では、神代植物公園です。公園という立地条件の良さで、根も枝も十分に張り、伸び伸びと育ち、巨木の圧倒的な迫力に満ちています。

ここで、ご紹介。JR高尾駅北口から約十分、林野庁所管の「多摩森林科学園」がお勧めです。全国から樹木を集め、研究生育させているところ

で、桜ゾーンもあり、3月下旬から5月中旬まで、桜が楽しめる、お目にかかったことの無い種類の桜を鑑賞できます。ぜひ、一度訪れてはいかがですか？

小樽の街について



61期
後藤 剛

私が生まれ故郷である『小樽』を出て、早いもので31年が経過してしまいました。

当然ながら年を取るのもあつという間で、この2016年が40代最後の年となつてしまいました。自分ではそんなに年を取つたつもりは全くなく、まだまだ小樽の急な坂を走り抜けたあの時代のつもりでおります。(笑)

今回は我が故郷、小樽の街の思い出について語りたいと考えます。

まず一つ目は小樽を語るには欠かせない『海』です。1年に1回帰省した際にJRの窓辺に広がる日本海を見ると、あゝ帰ってきたなあと思

ち着きます。

夏は穏やかな表情で深い青い色、冬は夏と全く逆で鉛色の厳しい表情で日本海独特である事を海無し県に住んで痛感致しました。(現在は、家族が群馬、単身赴任先は埼玉です)子供の頃は遊び場として海に行く事が多く、東小樽海岸(子供の頃は熊白?)と言っていた記憶が……)で貝や魚を取った事、石浜で急に深くなり溺れそうになった事等、走馬灯の様に思い浮かびます。また、天気の良い日には数百キロ先の増毛連山がくつきりと浮かび上がるあの光景も鮮明に出てきます。本当に小樽の海は私にとって忘れられない、かけがえの無いものです。

に行つた感動は今でも忘れません。マグロ、カニ、しゃも、ぼたん海老等小樽には美味しい近海の魚が多いですが、私が一番好きなネタはあわびでした。あのコリコリとした食感が大好きで一番最後に食しておりました。また、本州に来て気付いた事です、平日等の白身はなかなか生では食べる機会がありません。

年を取ると好みも変わってくるもので、今ではタコやホタテが好きになっております。一年に一回の帰省の際には、家族や友人とお寿司屋に必ず行き、幸福感を味わっております。

ちなみに私が勤務する新橋の傍(銀座一丁目)にも「小樽政寿司」が本店し、先日顧客との会食に使用致しました。小樽とは違い随分とお値段も高級でした。やはり土地の値段の違いでしょうか……。

三点目は、これも小樽の代表的な特長である「坂」です。子供の頃から何気なくいつも歩いてきたものですが、今になって思うとよくあんな急坂を登る事が出来たなあと思う今日この頃です。

特に冬の登校の際、激しい雪、風の中、前が全く見えないう状況で、友達同士でわいわいはしゃぎながら、学校に着

いた頃には手や足、顔面が濡れ、暖房器具の前に行き、暖を取ったのを思い出します。

特に高校三年間は尊商会メンバーの皆様が誰もが経験したあの「地獄坂」での登校が鮮明に浮かびます。まずは、小樽駅前から名店街前を曲がり、小樽警察を過ぎ、富岡教会辺りが第一中継点といった感じでしょいか。続いて更に急になる商大前通り？までのポイント。最後にあと踏ん張りの勾配のきつい喫茶『三叉路』辺りを過ぎ、ようやく商業高校校舎にゴールインの道

のりでした。当時はそんなに疲れた（北海道弁でこわい）感覚はありませんでしたが、校舎近くから振り返った際に見える小樽港が絶景だったのを今でも覚えております。特にフェリーの様な大きな船が港に居た時の景色が忘れられません。

また、高校三年間はバトミントン部に所属しておりますが、練習として日課であった旭展望台までのランニングの苦しさと言ったらそれはもう大変なものでした。時にゴールデンウィーク時に実施された合宿時にはスタートから10分後に先輩が車で追いかけて来てゴール前に抜かれた場合は、もう一度やり直しと言っ

た厳しい試練がありました。

今で言うと完全にパワハラでアウトですね（笑）

この厳しい小樽の坂で鍛えられたお陰で今でも体力には自信があり、ある意味感謝しております。

年を取ると何故か『故郷』が一段と恋しくなります。一年に一回の場ではございますが、東京尊商会総会での先輩方々との思い出を話し、情報共有、アドバイス等々を大切に、いつでも小樽の街、尊商会を忘れずに日々の生活の糧にして参りたいと心より思っております。

今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

小樽を思っ

68期

小林 玲子

札幌から小樽に向かう列車の中、朝里を抜けて、小さなころから見慣れている熊碓トネルの上に建つ銀鱗荘と小樽の街並みが海の見ええと帰ってきたと実感し、ほっとする瞬間です。なので、座席は海側に座ることにして



左端が小林さん

います。

関東にきた頃は環境の違いや、習慣・言葉など戸惑うことが沢山ありました。それまで冬は雪が降るのが当たり前だった生活で、初めて雪のない冬を迎えた年は違和感を感じ、四季がはつきりと感じられていた北海道の生活は贅沢で有り難いことだったことに気が付きました。雪のないお正月は今でも慣れません。

子育ても一段落し、気が付けば小樽を離れて25年近く経っていました。昨年、東京尊商会に初めて参加させていただきましたが、今になって小樽商業と係わりを持つとは思いませんでした。毎年多くの方が参加されているのを初

めて知りました。

昨年は、若い世代が今までになく集まったそうで、私は懐かしい時間を過ごすことが出来嬉しく思いました。

私の高校生活はとても楽しく思い出深い3年間でした。吹奏楽部に所属し部活動の毎日を過ごしました。潮まつり、文化祭のパレードなどの行事。パレード練習をしに旭展望台を往復しました。そして定期演奏会に向けて遅くまで練習し、演奏会当日はとても感動した記憶が鮮やかに思い出として刻まれています。

学校帰りには、長い長い地獄坂を友達と喋りながら下りて、都通りや長崎屋をぶらぶ



熊碓から銀鱗荘をのぞむ



地獄坂

らし、喫茶店に寄るのも楽しみの一つでした

今は母が一人暮らしになり、小樽には年に何度か帰りますが、私も年を重ねると故郷を思う気持ちが強くなってきました。でも、いつかは帰る場所が無くなることを思うと淋しく複雑な思いです。

そんな中、2年後に小樽商業が小樽工業と統合し、校舎も無くなると知りました。

生徒数は昔と比べて少ないとは聞いていましたが、本当に残念でなりません。

それまでに、また地獄坂に登り小樽商業高校の想い出を訪ねてみようと思っております。



お知らせ
今年の東京尊商会「同窓の絆」
総会は
平成 28 年 10 月 29 日
土曜日 12:45 より受付 13 時開会
注：開催時間が早まりました

下記ホテルで開催します
ホテル東京ガーデンパレス
東京都文京区湯島 1-7-5
御茶ノ水駅下車 聖橋口より徒歩 5 分

東京尊商会平成 28 年度役員

職 名	氏 名	期	職 名	氏 名	期	職 名	氏 名	期
顧問	古山 茂	36 期	会 長	中村 みのり	41 期	常任理事	千葉 敏朗	53 期
顧問	藤田 賢治	36 期	副会長	小野 政春	49 期	常任理事	成沢 桂	68 期
顧問	高橋 光雄	39 期	副会長	田中 光隆	49 期	常任理事	井上 和弘	69 期
顧問	宮尾 玲子	40 期	副会長	村松 次男	49 期	理 事	倉重 敬子	46 期
顧問	星 観二	41 期	副会長	村井 健	51 期	理 事	高橋 和子	46 期
顧問	市川 東紀宗	42 期	監 事	水島 睦夫	43 期	理 事	山田 幸雄	47 期
			監 事	土橋 弘幸	43 期	理 事	須戸 美代子	49 期
相談役	島 久雄	41 期	常任理事	原田 登志子	43 期	理 事	田中 則夫	51 期
相談役	澤山 良一	42 期	常任理事	戸井 吾郎	47 期	理 事	大高 敏孝	55 期
			常任理事	坂崎 登	53 期	事務局長	浜谷 哲男	45 期

事務局へのご連絡は 浜谷哲男 TEL

会員の住所変更など、気軽に相談下さい。ご意見大歓迎！

編集後記

3月26日在京・緑光寮O
 B会が、銀座の飲食店で集
 う話が先輩より誘いをい
 いただき、「麦笛」の担当して
 おり且つ当方も地方出身で
 寮に入っており、懐かしく
 出席致しました。

39期・後藤様から43期ま
 での6名にて、最高齢84歳
 と皆さん写真左の元気な
 ご様子、話題は病のことから
 寮生仲間の音沙汰、青春時
 代の呼び名……当方とは一
 回り以上の年齢差、当時の
 先生の名前の話をしてもチ
 ンプンカンパン……話題が折
 り合いつきません、ただ場
 の雰囲気は今でも昔同様？、
 上下関係は厳しかった様子

が覗えました。
 学校寮を3年間なのです
 が、卒業して65年強、忘れ
 ることなく年に1度の集い
 を大切にしたいものです。

たまたま6月25日の小樽
 尊商会総会当日午後小樽駅
 に着き、駅前から海を臨ん
 だところ、小樽港に白いビ
 ルがドーンと立っている？、
 よく見ると大型客船が入
 港、初めての光景です。昔
 自衛隊の護衛艦は見たこと
 ありますが、10階建て相当
 の大型客船は初めてです。
 これからもたくさん大型
 客船が入港して、小樽経済
 の活性化起爆剤になってほ
 しい気持ちです。

村井健 51期



小樽駅より港をのぞむ